

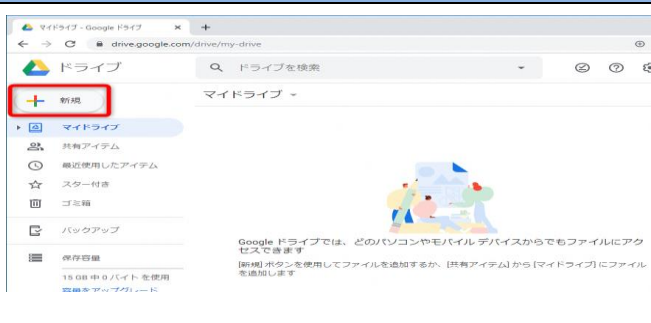
チャレンジ360

令和2年12月25日（金）
新潟市教育委員会
学校人事課
働き方改革推進部会

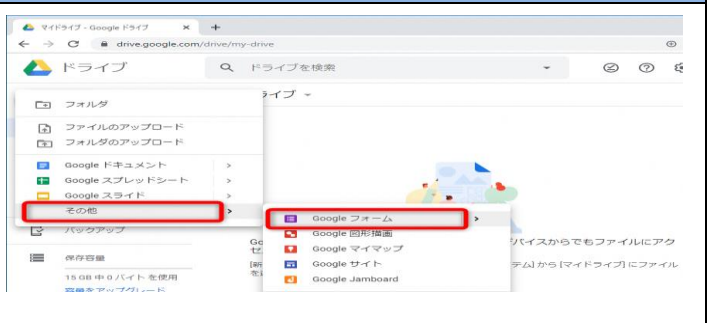
紙文化を見直し、さらに効率化を進めよう！

校務支援システムの導入等に伴って、学校の職場環境が大きく変化します。変化に対し、様々な不安をおもちかと思えます。そこで、前号では、校務支援システムの導入により「できるようになること」を紹介しました。今回も、「できるようになること」を紹介します。**10月に新潟市の教職員に Google アカウントが付与されました。このアカウントを使うと誰でも Google フォームが活用できます。**Google フォームを活用すると、誰でもウェブ上でアンケートを作成し、公開することができます。作成に特別な技術は必要ありません。

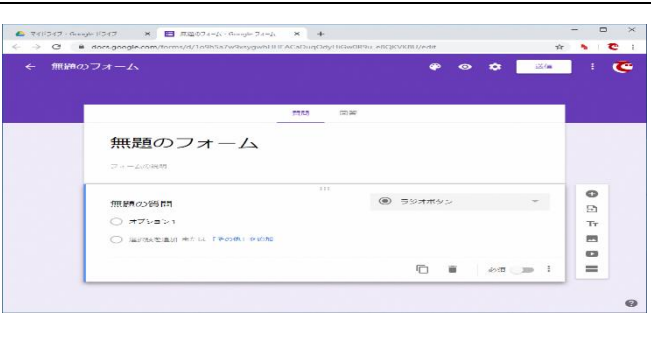
①「Google ドライブ」にアクセスし、新しいフォームを作成する



②[その他]→[Google フォーム]の順にクリックする



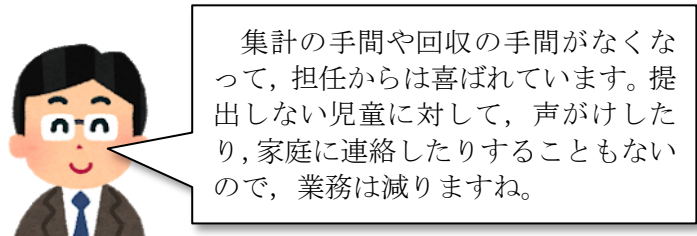
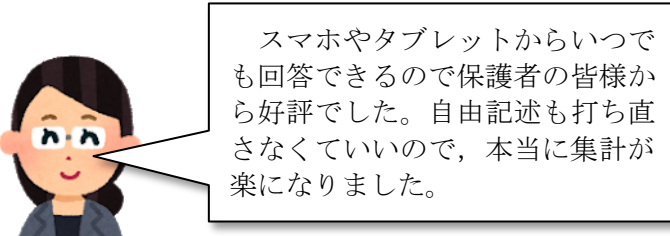
③無題のフォームが作成される。



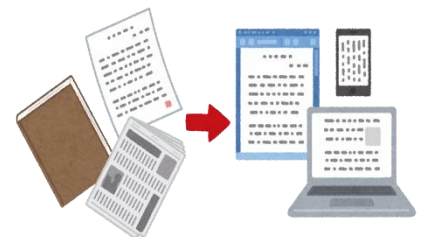
あとは、目的に応じてタイトルを変更し、質問内容を入れていくことになります。

すでに、**学校評価の保護者アンケートで使っている学校や、休校期間中の児童の様子を把握するために使用した学校もあります。**今後、1人1台のタブレットが配布されれば、児童生徒に授業アンケートを行い、評価などに役立てるなどのことも可能になります。

ウェブ上でのアンケートを行うことは、実施する側はもちろん、回答する側（保護者、児童生徒、教職員）にもメリットがあります。さらに、紙の削減や印刷時間の縮減などにもつながります。実際に、使用している学校からは、以下のような声が届いています。



文部科学省から、10月に学校が保護者に求める押印の見直し及び学校・保護者等間における連絡手段のデジタル化の推進について通知が出ました。今後も、様々な変化を求められることが予想されます。変化に対応し、新たな環境で「できるようになること」を考え、実践する。今後も教委、学校園が力を合わせて取り組んでいきたいと思えます。



時差勤務を活用した働き方改革の推進について

教育委員会では、時差勤務の導入を段階的に進め、効果的な活用法を検証し、本格実施に向けた環境整備を行っています。7月以降、時差勤務を試行した学校園からは、以下のような声がありました。

時差勤務の効果

- 早出、遅出のどちらも、教職員のライフスタイル等に合わせて積極的に活用し、働き方改革につながっています。(子どもの送迎、通院、介護等)
- 職員全体の帰宅時間が早まり、勤務時間に対する職員の意識改革につながっています。
- 渋滞時間を回避することができ、通勤の負担が減りました。
- 夏休み中、部活動を涼しい時間に実施できました。
- 各日、全体の半数を超えないよう調整する過程で「学年会の効率的運営と学年業務の分担」「働き方と余暇の過ごし方」に関する有意義な話し合いが行われました。

今後、検討していきたいこと

- 「職員1人当たり2週間につき5日以内」の時差勤務日を増やしてほしいです。
- 夏季休業中だけでなく、通常授業時にも実施できるような体制を築く必要があると思います。
- 時差勤務を行いやすい職場の雰囲気や体制を整える必要があると思います。

「早出出勤に助けられています」

通院や家族と過ごすために早出出勤を利用しています。歯科の予約は17時前の方が取りやすく、時間のかかる治療もしてもらえます。また、家に早く帰って娘と話す時間も増えました。

ただ、学級事務や授業準備、校務分掌の仕事などは、1週間先を見通して進める必要があります。生徒指導的な問題で、時間通りに帰れないこともあります。

ですが、この制度のお陰で余裕ができました。今後も活用したいです。

先生方の声

(市内A小学校)



「ありがとうございます！」

86歳の一人暮らしの母親がおり、生活の様子を見て支えるために、週2日の早出出勤制度を利用しています。母親の安否確認、身の回り品の購入や通院の付き添い等に時間を使うことができ、大変ありがとうございます。

私は今まで、仕事上、家族よりも担任をしている子どもや職場での仕事を優先していた部分がありました。今後は家族も大切にし、この制度が利用できる職場環境に感謝して、時差勤務を活用できると嬉しいです。

これらの声にあるように時差勤務には、働き方改革に向けて大きな効果(ライフスタイルに合わせた働き方の選択、働き方や勤務時間に対する意識改革等)があります。一方で、一年を通して学校全体で、時差勤務を活用した働き方改革に取り組んでいくためには、時差勤務を前提とした学校運営(校務分掌や教育課程の工夫等)が必要になってきます。

時差勤務を前提とした学校運営の一例

- 一人の学級担任が朝の会、授業、給食、帰りの会すべてに出なければいけないシステムを見直し、教職員が協働したり分担したりして、教育活動を進める学年運営や学校経営を進めていく。
 - 複数担任制やグループ担任制等を実施し、学年主任、早出の担任、遅出の担任等が情報共有を密にして、学年運営を進める。
 - 30分早出の教員は、朝の子どもの出迎えや朝の会等の中心となり、放課後の活動は少なめにし、16時15分に退勤する。
 - 1時間遅出の教員は、朝の会には出ず、1限を空き時間として9時15分に出勤する。放課後の活動(部活動や委員会活動等)の中心となる。
- ※ 小学校においても、教科担任制を併せて実施することで、より多くの目で子どもの様子を見たり、情報共有したりすることがスムーズになっていきます。

校種や学校規模、職員構成など、各学校園で事情は様々です。それぞれの学校園の状況に応じて、効果的な活用の方法について検討を進めてみてはいかがでしょうか。